

On the Usages of V-tai by Advanced Learners of Japanese : based on the YNU Corpus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00026305">https://doi.org/10.14945/00026305</a>

# 日本語上級学習者のVタイの用法に関する考察

## — 「YNUコーパス」を用いて—

熊井 浩子

### 【要 旨】

本稿では「YNUコーパス」を用いて上級以上の日本語学習者のタイの使用頻度や用法について考察した。その結果、動詞の自他や使役・授受表現の間違いやタイ・ホシイの混同、自分の行為でなく結果として変化に影響を与えた場合にタイを用いた誤用も見られた。さらに、タガルの用法のむずかしさや第三者の希望を表す場合にもタイが使える場合もあることに起因する間違い・不自然な表現も観察された。このような構文や人称制限に関わる過失に加え、「借りる」と「貸す」の選択、ノダなどの文末表現や適切な談話展開、タイで表される機能、待遇の調節機能を持つ尊敬語や謙譲語等の使用等、対人的配慮に起因する不適切な使用など、母語話者とは量的な差というよりは質的に大きな違いがあることが明らかになった。このように、Vタイは構文上のみならず待遇上においても習得がむずかしい項目であり、初級以降も引き続き多角的に指導していくことが不可欠であると言える。

【キーワード】 YNUコーパス Vタイ 韓国語・中国語母語話者 上級

### 1 はじめに

近年コーパスを用いた言語研究が盛んになっているが、横浜国立大学がプロジェクトの中心となって構築されたYNU書き言葉コーパス（以下、「YNUコーパス」）には、多様な読み手を想定した12の課題における作文から収集した韓国語・中国語を母語とする日本語学習者各30名及び同年代の日本人学生30名のデータが含まれている。学習者は全員が日本語能力試験N2または2級以上の合格者で、おおむね上級以上の日本語力をもつが、タスクの達成度から各言語話者をさらにそれぞれ「上位群」（10名）、「中位群」（10名）、「下位群」（10名）に分けていることも特徴の一つである。

趙（2015）はこのYNUコーパスを用いてこれらの日本語学習者と日本語母語話者の言語産出の実態を分析した結果、品詞や異なり語数、文構造などで日本人の使用実態に近づいている一方で、挨拶語、人称代名詞、指示代名詞や連体詞「比の」「其の」の使用の違い、助動詞「たい」の過剰使用など、日本人学生の産出とは異なる学習者の特徴が見られたと述べている。

このVタイについて筆者は、熊井（1989）において聞き手と話し手の希望を聞く場合の「ほしい」「たい」の用法を分析して以下のような制約を明らかにするとともに、これらが利益・恩恵の授受を含意した、対人関係に深くかかわる表現であることを指摘している。

ルール1：話し手と相手いずれにもかかわる行為で、それが話し手が相手の利害に関係ある時、「Nが/Vて ほしい・Vたい」を用いて相手の希望を尋ねることができ

るのは、話し手が選択権をもって相手に利益・恩恵を与えることを言語として表現している場合のみである。

そのうえで、一見待遇表現とは関係がないように思われるこのような表現の誤用が狭義の敬語の非用や誤用以上に母語話者に違和感を抱かせる可能性が高く、注意が必要であること、特に日本語レベルが上がるにつれて、そのような危険性が高くなることを考察している。

そうであれば、「たい」の過剰使用や誤用などの学習者の使用実態の特徴が母語話者に大きな違和感を抱かせ、対人関係に影響を与える可能性も十分考えられる。しかし、趙 (2015) では使用数の調査のみで、質的な考察は行われていない。そこで、本稿ではYNUコーパスのデータを中心に「たい」の産出実態を量的のみならず質的に分析し、上級・超級学習者の「たい」使用の特徴と問題点を明らかにしていく。さらに、そのような誤用から浮かび上がる「たい」の用法についてもあらためて考察する。なお本稿では今後、引用以外の「たい」はタイと統一して表記することとする。

## 2 タイの使用数

趙 (2015) は表1のようにタイの産出状況を調べ、韓国語母語話者はタイの使用が多いが、日本語母語話者は少ない、また、学習者は全体的にみるとタイを過剰に使用していると言える」と述べているが、上述のようにタイについての言及はこれだけで、詳しい考察は行われていない。

表1 趙 (2015) 助動詞の産出状況より

助動詞	中 国			中国集計	韓 国			韓国集計	日本集計	集 計
	下位群	中位群	上位群		下位群	中位群	上位群			
たい	45	54	64	163	50	63	75	188	128	479

産出数についても、韓国語母語話者が合計188件、中国語母語話者163件、日本語母語話者が128件という数字が示されているのみで、これだけでは、日本語学習者に過剰使用が見られるのかも判断がむずかしい。そこで本稿では、産出数に有意差があるかどうかを明らかにするため、 $\chi$ 二乗検定を行ったが、それに先立ち、あらためてタスクごとの産出数をカウントし直した。それをまとめたものが表2である。

表2 タイの産出状況

助動詞	中 国			中国集計	韓 国			韓国集計	日本集計	集 計
	下位群	中位群	上位群		下位群	中位群	上位群			
趙	45	54	64	163	50	63	75	188	128	479
熊井	45	54	64	163	53	60	76	189	131	483

その結果、中国語母語話者については超（2015）と同数であったが、韓国語母語話者と日本語母語話者の数字に微妙なずれがあった。趙は基本的にはMeCeb 0.996、UniDic-mecab 2.1.2を用いた形態素解析処理による分析であるとしているものの、データの詳細が示されていないため、この違いの理由を明らかにすることはできないが、趙が韓国語母語話者上位群と日本語母語話者のデータのうち、(1) のようなタイ以外の活用形、「たかった」「たく」「たくて」「たければ」などや(2) のようなタガルとその活用形、あるいは(3) のようなタイに先立つ動詞の活用や表記の間違い等のどれかを拾っていない、あるいは韓国語母語話者の下位群の一部が中位群としてカウントされているなどの可能性が考えられる。なお、タガルはタイの用法と切り離せない事項であるため、本項ではこれも含めて考察することとする。

- (1) ところが、友達から先生の研究室にはあると聞き、先生から貸していただきたくてご連絡いたします。(タスク1【K036】)
- (2) ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる町でよく知られています。(タスク6【K004】)
- (3) 第二の故郷である町の人々のためでもお金だけを追求しがちな現代社会の弊害を訴いたいという気持ちである。(タスク6【K006】)

筆者が求めたこの数字をあらためて $\chi^2$ 乗検定にかけてみたところ、学習者と日本語母語話者との間で0.025の水準で有意差が認められた。ただし中国語母語話者と韓国語母語話者には有意差は見られなかった。一方日本語母語話者と韓国語母語話者は0.025の水準で有意差が認められ、日本語母語話者と中国語母語話者の間には有意差は認められなかった。その意味で、韓国人留学生はタイの使用が有意に多く、全体的にみると学習者に多くのタイの使用が認められていることが一応確認された。

使用状況をさらに詳しく見るため、個人別・タスク別のタイ産出状況をまとめたのが表3・4である。これによると、使用回数の平均は韓国語母語話者が6.3回、中国語母語話者が5.4回、日本語母語話者が4.4回となり、韓国語母語話者の使用回数が突出しているとまでは言えないことがわかる。また、韓国語母語話者・中国語母語話者と言っても、タイの産出数には個人差がある。表3を見ると、両母語話者ともに全てのタスクで1から3回程度しかタイを用いていない者がいる一方で、10回を超えている者が韓国語母語話者では5名(上位群3、中位群・下位群各1)、中国語母語話者では2名(ともに上位群)いた。このうち韓国語母語話者の1名は14回であった。また、1つのタスクで4回産出された例が韓国語母語話者で4件、中国語母語話者では6回が1名であった。このような突出した使用例が全体の数を押し上げている可能性は否定できず、韓国語母語話者・日本語学習者全体に過剰使用が見られるとまでは言えないことになる。ただし、韓国語母語話者にタイを多用する傾向が高い人が見られたということは事実であろう。

表3 韓国語・中国語母語話者のタイ産出数

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	計	
H	4	1		1	2	2	1		1		2	2		12	
	6	1		1	4	2	1			1			3	13	
	9	1	1	1	1	1	1		1					6	
	10	1				3				1				5	
	18	3			2					1				6	
	26			1										1	
	27	1		1	1				2					5	
	36	1	1	1			1		1					5	
	37	2	1	1	1		2		1			1		9	
	39	3			1	4	4		1	1				14	
	小計	14	3	1	10	10	9	10	0	8	3	2	6		76
	M	3	2	1	2	1	1	1		1		2	2		8
		5	1		2	1	5	1	1						11
		8	2	1	2		1								6
12		1	1			1	1		1					6	
13		2	1	1	1									6	
15		2												2	
34		1			1			1			1		1	4	
35				1	1	1	2	1	1					6	
38						1	1	1	1					3	
40		2	1	2	2				1					8	
小計		13	5	0	8	8	3	11	0	7	2	0	3		60
L		11	1		1	1									3
		19	3	1	1	1			2						8
		20			1	2									3
	21	1		2		3	1							7	
	23	2		2	2									6	
	25	2		1	1	1	1	2	2	2				11	
	28	1	1	1	1									4	
	29	2	1	1	1									5	
	32	2		1										3	
	33	1			1	1								3	
	小計	15	3	0	11	10	3	3	0	4	2	2	0		53
	合計	42	11	1	29	28	15	24	0	19	7	4	9		189
	H	1	1		1	1									3
		2	1	1	2	1			1						6
3				1	1			1						3	
33				1	1			1	1					4	
39				1	1					1	1			3	
46		1		1	2	6	1							11	
47		1	1			1						1		4	
48		1		2	3	2	2		1					11	
49		1	3		1				1					6	
58		1		1	3	2	2	2	2	1	1			13	
小計		5	6	0	6	15	5	11	0	8	3	2	3		64
M		5	2		1	1	2		1						6
		6	1	1	1	1			1						5
		10	1	1		1									3
	38				1	1		1	1		1			5	
	40			1	2	1			1		1			6	
	42	1		3	1	3								8	
	43	2		1	2						1			6	
	54	2	1			2	1	1						7	
	59				1				1	1				3	
	61	1		1	1	1					1			5	
	小計	10	3	0	7	9	5	7	0	4	4	1	4		54
	L	8	1						1						2
		12			3										3
		13	1		1				1						3
20		1		2	2	1								4	
22		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			8	
25		1			1									2	
26		1	1		1									4	
38		2		1	2						2			7	
45		2		1	1	1	1	1						6	
50				1	1	1			1		1	2		6	
小計		7	5	0	8	3	6	3	1	3	3	0	6		45
合計		22	14	0	21	27	16	21	1	15	10	3	13		163
総計		64	25	1	50	55	31	45	1	34	17	7	22		352

表4 日本語母語話者のタイ産出数

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
J	1	1			1	1	1	1					1	1	7
	2		1			1									2
	3	1			1							1			3
	4	2	1		1								1		5
	5				1									1	2
	6	2			1	1									4
	7		1								3			1	5
	8	2			1	1	1								5
	9	2	1		2										5
	10	2			1							1		1	5
	11	1				3									4
	12	1	2		1								1		5
	13	1			1	1	2	1							6
	14	2			1	1									4
	15	2				3	1	2							8
	16		1		2	2									5
	17				1				1					1	3
	18	1			1	1									3
	19	1				4	1					1			7
	20	1			1			1							3
	21	2	1								1		1		5
	22	1			1	1									3
	23	1	1						2		2				6
	24	1				1	1								3
	25	1			1								1		3
	26						2		1						3
	27	1	1		1	1									4
	28	3			2				3						8
	29		1		2						1				4
	30						1								1
合計	32	11	0	24	24	8	12	0	7	4	4	4	5	131	

①～⑫：タスク1～12

K：韓国語母語話者

C：中国語母語話者

J：日本語母語話者

H：上位群

M：中位群

L：下位群

また、表5はレベル別・タスク別の使用頻度をまとめたものである。大部分のタスクで日本語母語話者の使用が最小、韓国語母語話者が最大であるが、タスク6・7・9・10・12のように、学習者と日本語母語話者の差が比較的大きいものと、そうでないものがあるなど、課題によってタイの用いられ方に差があるものとそうでないものがあることもわかる。また、単なる使用回数の違いだけではない用法の違いもあると思われる。そこで、次節では、タスクごとのタイの使用状況について詳しく考察する。

表5 レベル別・タスク別タイ産出数

		タスク1	タスク2	タスク3	タスク4	タスク5	タスク6	タスク7	タスク8	タスク9	タスク10	タスク11	タスク12	計	總(2015)
韓国語 母語話者	上位群	14	3	1	10	10	9	10	0	8	3	2	6	76	75
	中位群	13	5	0	8	8	3	11	0	7	2	0	3	60	63
	下位群	15	3	0	11	10	3	3	0	4	2	2	0	53	50
	韓国計	42	11	1	29	28	15	24	0	19	7	4	9	189	188
中国語 母語話者	上位群	5	6	0	6	15	5	11	0	8	3	2	3	64	64
	中位群	10	3	0	7	9	5	7	0	4	4	1	4	54	54
	下位群	7	5	0	8	3	6	3	1	3	3	0	6	45	45
	中国計	22	14	0	21	27	16	21	1	15	10	3	13	163	163
学習者	計	64	25	1	50	55	31	45	1	34	17	7	22	352	351
日本語 母語話者		32	11	0	24	24	8	12	0	7	4	4	5	131	128

### 3 タスクごとの産出状況と特徴

#### 3. 1. タスク1

タスク1は、レポートを書くために面識のない先生に本を借してほしいというメールを出すという設定である。

まず、注目に値するのが、(4) から (6) のように日本語母語話者の中にVタク・Vテイタダキタクのようなタイの連用形を用いている者が30名中7名、8件あり、そのうち7件がVタク+メール/連絡サセテイタダイタのような、メールをした目的を述べる文で用いられている点である。

- (4) 田中先生の研究室に、『環境学入門』があると聞き、貸していただきたく、ご連絡させていただきました。【J004】
- (5) この度は『環境学入門』という本をお借りしたくメールした次第であります。【J010】
- (6) 今回、レポートを書くためにはどうしても、こちらの書籍が必要でして、先生方に相談してみたところ、田中先生が書籍をお持ちということを知り、そちらを借りられるかどうかを確認したく、メールをさせていただきました。【J020】

筆者も日本語母語話者から相談や依頼のメールをもらうことが多いが、Vタクという表現をよく目にするという印象はない。それでは、この形はどのような時に用いられるのであろうか。インターネットで検索してみると、いわゆるビジネスメールの書き方を指南するサイトで多く紹介されていることがわかる。例えば「基本的な文章作法から頭がいいと

思われる文章の表し方まで学べる「書き方」サイトの「書き方ができる人コム」<sup>注1)</sup>では、「メール文章をスッキリさせる「～したく」の使い方」として、(7)のような説明をし、いくつかの例を挙げている。

(7) 「書き方ができる人コム」

文章がスッキリしたメールは読みやすく頭のいい感じが伝わります。メールで「～したいので」「～したいと思います」という文章を使う機会のときは「～したく」に置き換えてみてください。丁寧で無駄のない印象を与えることができます。

スッキリした文章に変換1

至急ご連絡したいと思いメールしました。(下線、筆者)

↓ ↓ ↓

至急ご連絡したく、メールしました。(同上)

スッキリした文章に変換2

当社主催のパーティーに出席していただきたいので、ご連絡差し上げました。

(同上)

↓ ↓ ↓

当社主催のパーティーに出席していただきたく、ご連絡差し上げました。(同上)

同じように「ビジネスメールの書き方」<sup>注2)</sup>でも、「照会（問合せ）のお決まりフレーズ・常套句・言い回し使用した文例〔ママ〕」として(8)(9)が挙げられている。

(8) 支払い条件について今一度確認させていただきたく、ご照会いたします。(同上)

(9) 支払い条件等について把握したく、お伺いもうしあげる次第です。〔ママ〕(同上)

このように、きゅっとしまった定型の依頼文としてビジネスメールのマニュアルの多くで紹介されており、当コーパスの被検者である大学生も何らかの形でこのようなマニュアルに触れて、依頼の場面での定型文として重用していることが想像される。ただし、依頼することが職務遂行上認められた行為であり、その流れもある程度定型化されているビジネスの世界ではこのようなコンパクトな文が好まれる傾向があるかもしれないが、タスク1のように、依頼することが話し手や書き手の当然の権利ではない場合にこの定型を使うと、いわゆるマニュアル敬語のような空疎で機械的な印象を与える可能性もある。この状況ではむしろ(10)のほうが好ましいと思われる。

(10) この度はお伺いしたいことがあり、メールを送らせていただきました。【J001】

依頼などで相手に負担を求める状況での言語表現の適切さは相手との関係や行為の妥当性等の要素に大きく左右されるので、とりあえず定型を使えば安心というような紋切り型の対応は望ましくないであろう。

学習者については、タクの使用例は3件、このうち(11)(12)のように、韓国語母語話者と中国語母語話者の上位群各1名にこの定型の使用が見られた。この表現が学生のメールでの依頼文として適切かどうかは上記の理由で意見の分かれるところであると思われるが、そうであっても、日本語話者と同様の定型を習得していることが超級者の特徴の一つと言えるのかもしれない。

- (11) ただ、図書館の検索システムから田中先生の研究室にその本があることが分りまして、本をお借りしたくご連絡いたしております。【K039】 上位
- (12) まことに恐縮ですが、先生の研究室にある本を貸していただきたく、このメールをお送ります。【C061】 上位

また、学習者の作文には「借りる」やそのバリエーションにタイを用いた例は22件、そのうち(13)のように「借りたい」は15件であった。このうちの4件は(13)のように先生に対する依頼としてではなく、本を借りたいと思って図書館に行ったがなかったという依頼の前提の説明に用いられており、借りる相手に先生を想定しているものではないが、残りの11件は(14)(15)のように借りる相手として先生を念頭において使われている。韓国語母語話者が6件、中国語母語話者で5件であった。

- (13) 「環境学入門」という本を借りたいと思って図書館に行きましたが、図書館にはなかったのです【C043】 中位
- (14) 来週までのレポートで、先生の研究室にある本を借りたいと思ひまして、メールすることになりました。【K018】 上位
- (15) 先生の研究室にこの本があるということを知って、先生から本を借りたいと思ってこのメールをお送り致しました。【C054】 中位

(16) のように、相手を貸し手に想定した「お借りしたい」も5件、「お借りさせていただきたい」「お借りすることをお願いしたい」<sup>注3)</sup>もそれぞれ1件あった。これと先の11件を併せると、相手に向けた「借りる」+タイは18件となる。

- (16) そこで、もし可能であればその本をお借りしたいと思っております。【K037】

11件の「借りたい」については、言い切りは1件もなかったが、(17)「借りたいですが」が1件あった。「んですが」というノダを伴った言い差しは(18)のように、依頼の前置きや依頼の表現として特に話し言葉でよく用いられるが、書き言葉としては不自然である。また、ノダを伴わないと、かえって自分の行為が正当であることを強く主張しているような印象となる。特にタイデスは自己の希望をストレートに相手に投げかける表現であるため、相手に負担を強いる依頼という状況ではいっそう失礼となる。

- (17) 失礼けれど、先生にちょっとお願いがあるんですが、実は『環境学入門』という

本を借りたいですが。【K020】 下位

(18) すみません、あのカバン見せていただきたいんですが。

また、(19) のように、同一の学習者に「借りたいからです」「借りたいんです」の使用が1件ずつあった。これはそのあとに「よろしいでしょうか」のように相手の意向を聞く表現がない場合には失礼となる。

(19) このようにメールを送るのは、先生の研究室にある「環境学入門」という本を借りたいからです。僕が今〇〇先生のレポートを書いています、自分が選んだ話題の根拠になるのがあの本に載せているので、ぜひ借りたいんです。レポートの締め切りは再来週までなんですが、できるだけいいレポートを書きたくてこのようにメールしました。【K019】 中位

さらに、「借りたいと思う」は4件であった。「借りたいです」に比べれば直接性は減り、(20) のように相手の意向を訪ねる表現を伴う場合は印象も和らぐが、(21) のようにそのような表現がないと自己の都合だけを言い連ねている印象となる点は「借りたいです」とさほど変わらない。(22) も相手の都合を聞くのではなく、「メールすることになりました」と自己の行為を当然のこととするような表現を用いているため、不快な印象となる。「メールさせていただきました」のように、本来はできないような行為を相手の負担のもとにやっていることを表す表現を用いるべきところである。

(20) それで田中先生の研究室にある本を借りたいと思いますが、よろしいでしょうか？可能な時間を教えてください。【K025】 下位

(21) もし私がその本をお借りいたしましても迷惑にならなければ一週間だけ貸していただきたいと思います。【K008】 中位

(22) 来週までのレポートで、先生の研究室にある本を借りたいと思ひまして、メールすることになりました。【K018】 上位

特に、(23) のように、返信の要求を重ねている場合は非常に強引な表現となる。

(23) 失礼だと思ひますが、もしよろしかったら、先生の本を借りたいと思ひます。では、ご返事を待っておりますのでどうそ宜しくお願ひ致します。【K040】 中位

5件の「お借りしたい」については、「お借りしたいです」「お借りしたいと思っております」や「お借りしたく+連絡した」、「お借りしたいのですが+意向聞き」が各1件であった。「お借りしたいんですが…」という言い差しも1件あった。「借りたいですが」という言い差しが書き言葉では違和感があることは先に触れたが、この場合はタイトルとして用いられていたため、さほど違和感はなかった。「お借りしたい」以外では、(24) のような「お借りさせていただきたいと思ひますが」という言い差しもあり、こちらは書き言葉として

は文が途中で終わっているような中途半端の印象となる。

(24) それで、その本をお借りさせていただきたいと思いますが。【K013】 中位

一方、日本語母語話者の場合、「借りる」がタイとともに用いられていた例は6件、学習者の18件と比べると1/3程度と、少ないことがわかる。また、形も全て「お借りしたい」という謙譲語を用い、目上の相手に対する行為であることを示している。「借りたい」は1件もなかった。謙譲語を用いた6件のうち、上で触れたようにメールをした理由として使われている(25)などの「お借りしたく」が3件、「お借りしたいのですが」という件名での使用が1件、残りの2件は(26)のように、そのあとに相手の都合や意向を聞く表現が続いている。一方的に希望だけを述べるような例は1件もなかった。

(25) この度は『環境学入門』という本をお借りしたくメールした次第であります。  
【J010】

(26) ○月○日までに、一度研究室にお邪魔して、本をお借りしたいと考えておりますが、ご都合いかがですか？ 【J008】

日本語母語話者と学習者は、「借りる」自体の使用頻度だけでなく、謙譲語の使用の有無や、相手の都合や意向を聞くかどうかというような聞き手に対する配慮の示し方にも大きな違いがあることがわかる。

また、学習者の場合は(27)のような表記のミスが2件あったが、これを修正する<sup>注4)</sup>と「貸す」にタイが付いている例は計5件、「貸していただきたくて」「貸していただきたくと思います」等、全て「貸していただきたい」のバリエーションであった。上・中位群の学習者が4名、下位群が1名であった。

(27) ですから、失礼なメールを送って、田中先生の研究室から《環境学入門》を借  
していただきたいと思います。【C026】 下位

一方日本語母語話者の場合は「貸す」にタイがついている例は8件で、「貸していただきたい」が3件、「お貸していただきたい」が5件、このうち4件は(28)のように、先に触れた「Vたく、メールした」のようなタクを用いた形であった。残りはタイトルに用いられた1例を除き、(29)のようにそのあとに相手の都合を聞く表現が用いられている。

(28) 田中先生の研究室に、『環境学入門』があると聞き、貸していただきたく、ご連絡させていただきました。【J004】

(29) もしよろしければ、ご都合の良い時にその本を貸していただきたいのですが、お願いできますでしょうか？ 【J015】

以上の結果から、目上の人に対する依頼の際、「借りる」と「貸す」を比べると、学習者

は書き手自身を主体にした行為「借りる」にタイを用いている場合が多く、相手が書き手のためにする行為「貸す」にタイを用いた例は非常に少ないことがわかる。これに対し、日本語母語話者は、「借りる」と「貸す」はほぼ同数で、どちらもそれほど多くない。

鶴田（1988）は、依頼の場面で英語の場合には相手に自分のためにある行為をさせることを表す「貸す」よりも「借りる」のほうが好まれ、日本語では相手の行為に言及する「貸す」のほうが丁寧であると指摘している。タイは自己や相手の希望・願望の表明という対人的にも非常にデリケートな言語表現であり、その使用には注意が必要であるが、ことにそれが貸し借りという相手の負担によって成立する事態であればなおさら対人的配慮が重要となる。とすると、相手の負担によって成立する事態を望むことを表すタイを伴う場合には「借りる」は用いにくいことになるはずである。

中国語や韓国語ではそれぞれどちらが好まれるのかは今後の研究を待ちたいが、日本語場面では両母語話者に自己の行為に言及した「借りる」の使用例が多いこと、さらに、下位群に「貸す」を用いた者が極めて少なかった点は注目に値する。一方、日本語話者も自己の行為「借りる」を使う場合もないわけではないが、謙譲語を用いてそれが目上の相手に関わる行為であることを示したり、相手の意向や都合を聞いたりして、聞き手に対する配慮を示すことにより、対人的な丁寧さを保つ工夫をしていることが明らかになった。このように、母語話者の場合は単に「借りる」「貸す」のどちらかを多く用いるというだけではなく、何らかの形で工夫をして適切な対人的配慮を払っていると言えるであろう。

さらに、日本語母語話者はそもそも「貸す」「借りる」+タイの使用が少ないことに加え、依頼部分で「貸す」「借りる」+タイの表現が少ないことがわかる。では、どのような表現で依頼を行っているのでしょうか。「貸す」「借りる」+タイを依頼表現として用いていない母語話者20件の表現を調べてみると1件を除いて全てそれが可能かどうかを尋ねる表現だった。このうち、(30)(31)のように「お借りできないかと思い」「お借りすることはできませんでしょうか」など「借りる」を用いていた例は9例（うち3例は表記のミスあり）、「貸していただくことはできませんか」「お貸しいただけませんか」など、「貸す」を主体とした表現は10例であった。可能表現以外の1例は、「お借りするために先生の研究室へお伺いしてもよろしいでしょうか」と、「借りる」を目的として使った表現だった。

(30) 『環境学入門』という本なのですが、お貸しいただけませんか? 【J002】

(31) もしよろしければ、少しの間お借りすることはできますでしょうか? 【J019】

これ以外では、学習者に(32)のような不自然な表現が見られた。「尋ねる」は「お尋ねする」のような形で用いるのが普通であるため、直接相手に向けて表現されると違和感がある。タイそのものの問題ではないが、「お尋ねしたい」という定型の誤用であると思われる。

(32) 今回は本の貸し出しについて少し尋ねたいと思ひましてメールをお送りします。  
【K009】 上位

このように、タイ自体の出現率は韓・中母語話者64件、日本語母語話者32件と、両者に差はないが、学習者には「借りる」の使用が多く、「貸す」を用いているのはほぼ中・上位群の学習者のみであること、また、多くの学習者が依頼の部分で「借りる」「貸す」+タイを用いているのに対し、日本語母語話者は事情説明等、依頼に先立つ部分でタイを用いている者もいるものの、依頼表現自体に用いている例は少なく、依頼では借りることの可否を問う表現が多く用いられていることがわかった。このことから、学習者と日本語母語話者のタイ産出状況の違いは、単なる頻度の差ではなく、用いられる機能や談話構成など、質的な違いのほうが大きいことが明らかになった。またそのような点は超級の学習者であっても習得がむずかしいこともわかった。

### 3. 2. タスク2

タスク2もタスク1同様レポートを書くのに必要な本を借りるためにメールを書くという設定であるが、相手は友人の「鈴木さん」となる。

韓国語母語話者のタイ使用回数は11回、中国語母語話者14回、日本語母語話者は11回である。こちらはタスク1と違って中国語母語話者の使用頻度がやや高くなっているが、韓国語母語話者での使用者の回数が全て1回であるのに対し、中国語母語話者は2回・3回がそれぞれ1名ずついるためであり、それぞれのグループの使用頻度にはそれほど大きな差はないと思われる。

学習者の場合、(33)のように読み手を相手とした「借りたい」は6件、「貸してもらいたい」が1件と、こちらもタスク1同様「借りる」が多いが、タスク1と比べれば頻度ははるかに少ない。また、(34)「貸したいです」が1件あった。「借りたいです」の誤用と思われるが「貸してほしいです」の間違いである可能性もあるため、件数からは除外した。

(33) 「環境学入門」の本は資料いっぱい入っていると聞いて、鈴木君から借りたいなんですけど、いいんですか？【C008】下位

(34) 僕が今修論を書いているところ、このため、どうしても「環境学入門」の本を貸したいです。【C045】下位

日本語母語話者の場合は、「借りたい」が1のみであった。

その一方で、(35)(36)のように、「貸してほしい」が日本語話者は4件、学習者では1件あった。これは両者ともにタスク1には見られないものである。

(35) レポート書くのに使いたいから、貸してほしいです。【J021】

(36) もしあれば、貸してほしいなんですけど、借りられるかなって、メールします。【C045】下位

「貸す」以外の動詞も含めてみると、学習者はタスク1でVテホシイはなく、Vテモライタイ1件、Vテイタダキタイ6件、タスク2ではVテモライタイ1、Vテホシイは上記「貸してほしい」を含む4件であった。そのうち3件は韓国語を母語とする上位群の学習者で

あった。日本語母語話者の場合は、タスク1・2ともにVテモライタイはなく、Vテイタダキタイはタスク1のみで8件、Vテホシイはタスク2のみで、5件であった。

宮川（1998）は、小説から採取された用例を基に、総数・会話文・地の文の全てにおいて、「てほしい」：「てもらいたい」の使用数の比率が3：1で、「てほしい」が多く使われていることを明らかにするとともに、会話文における用例では、「てほしい」「てもらいたい」とともに、動作主が二人称の場合が90%を超えており、会話文における中心的用法は「聞き手への希望・間接的 依頼」を表すことであると結論づけている。また、由井（1995）は、相手への働きかけの強い場合、相手が行為を行うことをある程度期待している場合に「シテモライタイ」が選ばれやすいが、使い分けはかなり微妙であるとしている。

今回の調査も動作主はすべて二人称であった。ただし、メールでのやりとりであるため、上記調査とは条件が異なる点もあるが、母語話者の場合には目上の相手に対してはVテイタダキタイを用い、親しい相手にはVテホシイを使う傾向があると推察される。この点については、上位群の学習者が日本語母語話者同様の傾向を獲得していることがうかがわれる。

VテホシイとVテモライタイの使い分けについては明確な違いは明らかにされていないが、目上の相手にはVテホシイは敬語型がなくて使いにくいいため、必然的にVテイタダキタイ・オVイタダキタイのような授受表現を用いることになるが、友達の場合にはVテモライタイよりVテホシイのほうが簡便な言い方であることから、Vテホシイが好まれるのではないかと筆者は考えるが、この点はさらに考察が必要である。

### 3. 3. タスク4

このタスクは、大学の留学生会代表として奨学金を増やしてほしいという会の意見をメールで学長に伝えるという設定である。このタスクでのタイの産出数自体は学習者と母語話者に大きな差は見られなかった。

また、タスク1と同様、日本母語話者の間ではタクが8件、2件はタク思、残りの6件は（37）のようにタク+連絡シタ etc. であり、ここでも定型的に使っている人が一定数いることがわかる。学習者も（38）のように1件、タスク1同様上位群の学習者に使用が見られた。

（37）この度は奨学金増の依頼をお願いをしたく連絡した次第であります。【J010】

（38）今回の留学生会議におきまして、いくつかの案が出ましたので、相談させていただきました。【K026】 上位

また、学習者のメールには「たいです」や（39）「たいんです」など、相手の都合を無視した押しつけがましい直接的な印象の言い切りの表現がいくつか見られた。いずれも下位群の学習者である。（39）のように、タスク1の「借りる」同様、相手の負担を含む動詞が先立つ場合には特に深刻である。

（39）その学生を、ために留学生奨学ひんを上げてもらいたいんです。【K028】 下位

学習者には(40)のように「もらう」や「Vてもらう」のように相手の負担により自身が恩恵を受けることを表す授受表現や行為に謙譲語を用いない例も多かった。これにタイを伴うと通常の謙譲語の非用に比べてより失礼な印象となる。イタダク・Vテイタダク・オVスルなどを伴うとその印象は緩和されるが、(41)のように、「いたす」を用いて「いたしたい」とすると硬い、断定的な表現となる。一方で(42)のように、相手の行為に謙譲語を用いてしまう誤用もあった。また、「いただきたい」が普通体で用いられると、かえって有無を言わせないような攻撃的な印象となる。

- (40) (前略) 全部とは言えませんが、それでも結構生きるのは出来るぐらいにもらいた  
いというのが会議の結論です。【K019】 下位
- (41) したがって、留学生奨学金の増員をお願いいたしたいです。【C006】 中位
- (42) この人達を助ける為にも、是非追加の件をご検討して頂きたい。【C061】 中位

さらに、(43)から(48)のように自動詞と他動詞、使役や授受表現等の間違いやホシイとタイの混同により、だれがその動作をするのかわかりにくくなってしまった例が複数見られた。それぞれ、「相談させていただきたい」「お願いしたい」「聞きたい／お聞きしたい／聞かせていただきたい」「増やしていただきたい／増やしてほしい」「相談させていただきたい」「サポートしていただきたい」などとすべきところである。これらの問題は下位群の学習者に多かったが、上位群の学習者にも見られた。使役や授受表現はそれだけでもだれの動作かわかりにくい表現であるが、そこにタイが付くことでますます構文が複雑になり、混乱してしまっただのではないかと思われる。

- (43) 実は留学生を代表として先週行った留学生会会義の内容報告とその件について○  
○様と相談していただきたいと思って、このように、メールいたしました。【K035】  
中位
- (44) 私は留学生会の者ですけど、今度の留学生会の会議で少しお願いいただきたい  
ことが一つありました。【K011】 下位
- (45) 先生のご意見はどうでしょう。ぜひ聞かせたいと思います。【C003】 上位
- (46) なぜ奨学金を増やしたいかというと、大学に入ったら勉強したいことも増えてき  
ました。【C012】 下位
- (47) 先生に奨学金についてちょっと相談いただきたいと思ってこのメールします。  
【C013】 下位
- (48) 彼らはお金のことを困らないようにできるだけ、学校も彼らをサポートさせてい  
きたいです。【C036】 下位

この中でタイの使い方自体の問題は(46)「なぜ奨学金を増やしたいか」である。通常は「増やしてほしい」となるべきところである。相手がある行為をすることを希望する場合に用いるこのVテホシイは、初級ではなく中級の学習項目であるため、初級や中級の学習者に誤用が少なくない。それには(49)のように、いくつかのパターンがあるが、この

場合の誤用は②または③にあたる。

- (49) ① AはBにVてほしい○  
② AはBがVたい×  
③ AはBにVたい×  
④ AはBがV dfほしい×  
⑤ AはBがV<sub>ます</sub>ほしい× etc.

多言語母語の日本語学習者横断コーパスであるI-JASでは(49)④にあたる(50)の例も見られた。この学習者はJ-CAT192で、200点以上が中級後半となることから、合計ではそれに近いスコアではあるが、文法の得点が低い学習者である。上級程度以上の学習者を対象としたYNUコーパスでは、このような誤用はなかった。

- (50) 彼のお母さんは、彼のお母さんは彼が結婚できるほしいです (後略) (J-CAT192)  
中級

ただし、(46)の場合、学習者が自己の働きかけによって、結果として奨学金が増えるという意味で「増やしたい」を用いた可能性もある。自己の働きかけがある変化をもたらすことを希望する場合、Vタイが可能なのは、(51)(52)のように働きかけの効力が変化をもたらした際に「私がVた」と言える場合に限られる。働きかけが功を奏し、結果として奨学金が増額になったからといって、奨学金を増やすのはあくまで大学であり、「私が奨学金を増やした」とは言いにくい。このように考えると、単純なタイとホシイの混用ではなく、その行為を行う主体でなければタイを用いることはできないというタイの制約に関する誤用であるとも考えられる。

- (51) この運動で世界を変えたい→私が世界を変えた  
(52) この運動で奨学金を増やしたい→私が奨学金を増やした

さらに、Vテホシイが学習者で9件、日本語母語話者の場合には21件のVテホシイの使用があった。学長という目上の相手に対しVテホシイが多いことは一見タスク2で述べたことと矛盾するように見えるが、このVテホシイはすべて「奨学金を増やしてほしいという意見」のような用法で、直接相手に向けられた希望の表現は1件もなかった。学習者の場合には9件中このような用法は5件であるが、4件は直接目上の相手に向けられたものであるという違いがあった。この4件は上位群2名、中位群と下位群が1名ずつであり、適切な使い分けがまだ習得されていないことを示唆している。ただし、タスクの指示の文に「留学生向けの奨学金を増やしてほしいという意見が出ています。」という一文があり、日本語母語話者や学習者の5件はこの表現を利用した可能性も高いため、学習者の5件がVテホシイの使用状況を正しく反映しているかどうかは不明である。

### 3. 4. タスク6

タスク6は閉鎖が検討されている町の病院の存続を求める新聞への投書である。

まず、(53) (54) のように、Vタガルを用いた例が3件あった。なお、(53) については、「～で知られている町」は「で」に先立つ部分はその町を有名にする名産品や景色などの場合はいいが、この場合は町がどんな特徴を持っているかを表す「として」を用いたほうが自然となるため、(53') のように改めた上で考察することにする。

- (53) ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる町でよく知られています。【K004】上位（再掲）
- (54) 特に婦人科やりハピリなどのサービスが受けなくなったら、○○町に住みたがる人々はもうなくなってしまうだろうし、これから産まれてくる赤ちゃんやりハピリが必要なお年寄りに思い及ばないくらいの被害が思われます。【K005】中位
- (53') ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる町としてよく知られています。

タイやホシイは他の感情・感覚を表す形容詞と同様、肯定型では話し手・書き手の、疑問文では相手の希望・願望を表す。そのため、通常主体が第三者の場合に用いることができず、その場合にはVタガルなどの形式を用いることになる。

韓（2011）は、ガルは話者が対象となる人物が示している外的な様子を、総合的な知識に基づいてその人物の内面と関係付けてとらえ、それが対象となる人物の内面と関係付けて描写することを表すとし、「XがAがる」という表現には、表6のように3つの用法を観察することができるかと述べている。

表6 韓（2011）

用法1	話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の「Aである」という内面の表出であると描写する。
	話者が、対象となる人物Xの「内面」に隠されたもう一人の人物X'を見ており、そのX'の示している外的な様子を総合的な知識に基づいてXの内面と関係付け、やはりXの「Aである」という内面がそこに表れているととらえている。
用法2	話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の「Aであるふりをしよう」という目論見の表れであると描写する。

さらに韓（2012）は、国立国語研究所「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ（2009年度版）」および『朝日新聞オンライン記事データベース・聞蔵』（2007年1月～12月）で収集した用例を分析した結果、以下のように現代日本語における「～がる」の統語的な特徴を5つ挙げている。

1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度などの外的な様子を表す表現を付帯状況

として伴う文。

2. 対象となる人物が発した言葉など外的な様子を表す表現を引用表現として伴う文。
3. 「～から／～ので／～ため」のような原因を表す表現, 「～と／～たら／～ば」のような条件を表す表現, 「～のに／～くせに」のような逆接を表す接続表現を伴う文。
4. 「とても／極端に／一途に／ほどに」のような程度を表す副詞的表現, 「しきりに／～たびに／珍しく」のような頻度を表す副詞的表現が共起する文。
5. 「最近／次第に～がるようになる」のように「今」の対象となる人物の外的な様子その人物の「以前」の外的な様子に対比する文, 「最初／昔／以前～がっていたが, …」のように「以前」の対象となる人物の外的な様子その人物の「今」の外的な様子に対比する文。

即ち、ガルは主体が第三者である場合に無条件で用いられるのではなく、対象となる人物の動作・動きや表情・態度や言葉などの外的な様子を表す表現や原因・条件、頻度や以前との対比の表現を伴うのが特徴である。また、田中（2010）は、(55)のように、タガルは一人称について述べる場合にも使うことがあると指摘している。

(55) わたしがお菓子を食べたがると、祖母はすぐ買ってくる。

さらに、タガッテイルがその場での観察に基づくのに対し、タガルは一般的な傾向・習慣を表しているとされる。白川（2001）でも、「～がる」は(56) aのように習慣など恒常的な場合にのみ使われ、一時的な場合にはbのように「～がっている」が使われると述べられている。

- (56) a. ひろし君は一人になるとすぐ寂しがる。  
b. ひろし君は寂しがっている。

(53)(54)は、主体が「多くの人たち」「人々」で、一般的傾向を表すことからタガッテイルではなくタガルを用いるのが適当であることになる。タガルとタガッテイルの違いや連体修飾で用いられていることなどから、(53')については韓（2011）の指摘と多少用法上の違いがあると思われるが、「自然が美しく、静かな町で」の部分が「住みたがる」理由として受け取られることから、ニュアンス等の微妙の問題を抜きにすれば、タガルの用法としてはとりあえず問題ないと思われる。(54)も同様である。

一方村上（2014）は、連体修飾における感情形容詞と被修飾名詞の意味関係を[対象]・[主体]・[とき]・[内容]・[表出物]・[相対補充]・[その他]の7つに分類している。このうち、[対象]は被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こすもの、[主体]はその感情の持ち主であることを表す。これに従えば、連体修飾の場合は第三者が主体の感情形容詞も用いることができることになり、「住みたい町」「住みたい人々」は文法的には正しいはずであるが、(53")のような文の中では座りが悪く、(53")「住みたいと思う町」などが自然となる。

(53”)〇〇市は自然が美しく、静かな町で、多くの人が住みたい町としてよく知られています。

(53”)〇〇市は、多くの人が住みたいと思う町としてよく知られています。

では、学習者は、どのような意図でタイではなくタガルを選択したのであろうか。「多くの人たち」という第三者が主語であるためタイは使えないと考えてタガルを用いた可能性もある。実際には条件によってはVタイNも可能となるが、VタイNと言にくい(53”)のような場合もある。この場合「住みたい町」「住みたいと思う町」と「住みたがる町」にはニュアンスの違いが感じられるが、これらにはどのような制約や差異があるのであろうか。この点も含め、連体修飾の場合の用法については稿を改めることにする。

いずれにしても、学習者がどのような表現意図をもってタガルNを用いたのかはわからないが、日本語教育ではタガルや感情・感覚形容詞、特に連体修飾の用法については通常あまり詳しくは取り上げていない場合が多いと思われる。そのため、上級の上位・中位群の学習者であっても正確に使いこなすのが難しい項目であると言えるであろう。

ちなみに、このタスク以外でタガルが使われていたのはタスク12の2例である。(57)は表記のミスはあるが、使い方は問題ない。(58)もやや座りが悪い印象はあるが、それは、タガルの問題ではなく、カラの前の文体やテンスの問題である。一方日本語話者は12のタスク中でタガルを使った例は1件もなかった。

(57) それで、天帝は織女を強くて真面目な男と結婚させたかっていました。【K013】中位

(58) 「牛郎」と「織女」はお互いに会いたがっているから、うつ病になれる可能性が多くて、「麻鵲」というお鳥さんたちは二人の愛情を感動されて、鳥の橋を作って、二人はその橋を利用して会った。【C026】下位

そのほか、タスク6では「たいのです」というノダの不自然な使用があった。これもタスク1等と同様、「～たいのですが」という依頼等の前置き表現の誤用である可能性がある。

(59) こんにちは、〇〇市の住民【C061】ですが、今日は市民病院のことについてお話ししたいのです。【C061】中位

また、3. 3タスク4などで、「Vたいです」という言い切りが失礼である例を紹介したが、同じ言い切りであっても、(60)と(61)は新聞の投書の文体としては問題ない。

(60) この件について、ちょっと私もとの意見を言いたい。【C020】中位

(61) だから、現在の医療体制のに、この病院の経営続きを願いたい。【C050】下位

さらに、(62)は構文のねじれがあってわかりにくい、「政府に」とあることから、保存する<sup>注5)</sup>主体を「政府」と考えると、「保存したい」は「保存してほしい」とすべきとこ

ろである。ただしこれも、タスク4で述べたように、ここでは単なるタイとホシイの混同だけでなく、自分が働きかけを行った結果、病院が「保存」されることになったとしても、「自分が病院を保存した」とは言えないが、間接的に自分が保存したことになると考えて「保存したい」を用いてしまった誤用である可能性もある。これも、タスク4同様下位群の学習者に見られた用例である。

(62) 私達はマスコミの力を信じて、政府によく考えて、この病院を保存したいと思います。よろしく願います。【C025】下位

### 3. 5. タスク7

このタスクは、休暇で学生の故郷を訪問することになった指導教授に頼まれて、メールでお勧めスポットや名物を紹介するという設定である。タスク1などで、「借りたいです」などの言い切りがぶしつけな印象を与えることに触れたが、このように依頼に基づいて自分が相手の恩恵となる行為をすることを望む場合には、(63)のように言い切りでも失礼な印象はない。

一方で(64)から(71)の8件は全て、相手が行為を望むことを表す表現であり、相手を子供扱いしたような不快な印象となる。その理由について鈴木(1989)は、聞き手の欲求・願望・意志・感情・感覚など、個人のアイデンティティーに深くかかわる領域を「聞き手の私的領域」と呼び、発話内容がこれに触れた場合には自己のテリトリーが侵害されたと感じて失礼になってしまうためであると指摘している。特に(70)のように「お聞きを致しました」のような改まった表現とともに用いると非常にちぐはぐな印象となる。

(63) さて、送ってくださったメールの件ですが、韓国へいらっしゃるならまずはソウルをオススメしたいです。【K036】上位

(64) 韓国風の伝統の町を感じたいならぜひ行ってみてください【K035】中位

(65) 韓国的な雰囲気を楽しみたいならインサドンがいいです。【K006】中位

(66) 仮に中国の歴史にもっと知りたければ、おすすめですよ。【C045】下位

(67) もしもっと知りたいたい部分などがあったら僕にメールしてください。【K025】下位

(68) もし聞きたいことがあったらまた連絡してください。【K033】下位

(69) また他の都市について或いは湖北省の他の点について知りたければ、ぜひメールください。【C046】上位

(70) 先日、先生が夏休みの時私のふるさと浙江省に旅行に行きたいということをお聞きを致しました。【C054】中位

(71) また、先生が行きたいところがあったら、教えてください。【C050】下位

このうち(64)から(69)は、Vタイナラ・Vタイコトガアレバのように仮定の形で用いられているが、(64)から(66)が相手の単なる願望に言及しているのに対し、(67)から(69)は相手が望むのであれば、自分が相手のためにある行為をすることができるという文脈で用いられている。これは熊井(1989)で指摘したように、話し手・書き手が相

手に恩恵を与える行為であるため、(64) から (66) のような単なる私的領域への侵害だけでなく、「してほしかったらやってあげる」というような恩着せがましさが生まれ、いっそう失礼な印象となる。ただし、いずれも、「たいですか」という疑問文に比べれば過失は軽くなる。

(64) から (66) に加え (70) (71) も、私的領域の侵害であるが、これらは例えば (64) 「お感じになりたいなら」のように敬語を使うことでだいぶ印象が変わってくる。

なお、相手の行為+タイを用いた8名は、1名を除いて中位から下位の学習者であった。

目上の相手の希望についてタイを用いた例は日本語母語話者にも (72) から (74) のように3件あった。ただし、例えば「ということ」や「等」を伴って、例や一般論として述べたりすることで、多少ともその直接性は和らいでいると言えるであろう。

(72) 歴史的な場所より、奥さまやお子さんを連れてショッピングなどに行きたいということであれば、私の故郷の横浜をおすすめします。【J015】

(73) 他に何か分からないこと、聞きたいこと等あればぜひ聞いて下さい。【J023】

(74) 一通り巡って一息つきたい時は真田から少し山に向かった所にある「満福の湯」という温泉がおすすめです。【J026】 下位

また、学習者の用例には3. 3. タスク4同様、(75) のように使役あるいは授受表現の間違いにより、だれの動作かわからない例もあった。これは中位の学習者である。敬語を抜きにして考えると、「食べてもらいたいです」または「食べさせてあげたいです」となるが、目上の相手であることを考えれば「食べていただきたいです」などが適切であろう。

(75) そして、辛いものが好きな先生にはシチュオンというところでのネンミョンを食べさせてもらいたいです。【K005】 中位

これも、動作主が変わる使役や授受表現に加え、ホシイ/タイの選択や構文の複雑さから生じた間違いであると思われる。

### 3. 6. タスク9

このタスクは、国際交流の広報誌で、国の代表的な料理の作り方を紹介するという設定である。(76) の「たいですが」は、3. 1.、3. 4. のタスク1・6等と同様、「教えていただきたいのですが」のような前置き表現との混同であると思われるが、こちらはノダが使われていない例である。(77) は「たいのです」で終わっている例であるが、こちらも押しつけがましさを感じさせる。いずれも「たいのですが」の用法のむずかしさをうかがわせるものである。(78) はタイだけの問題ではなくタイプミス等が原因であるとも思われるが、書き言葉では助詞を省略しにくいというルールの違反となる。さらに、(79) 「Vたい気持ちをもつ」も日本語として不自然である。

(76) さて、「サムゲタン」の作り方を説明したいですが、まず、土なべを用意し、きち

んとお手入れされた小鳥を切らずにそのまままるに土なべに入れます。【K036】  
上位

(77) 韓国の代表的な料理はいろいろありますが、僕は「ドゥエンジャンチゲ」を紹介したいのです。【K019】 下位

(78) 東北は地理的に冷いところですから、冬になると暖い料理皆食べたくなるのです。【K013】 中位

(79) 「ドゥエンジャンチゲ」はどこでいつでも、だれでも食べれる料理で、一人ぐらしをしている韓国人のほぼ100%は自分の実家の「ドゥエンジャンチゲ」を食べたい気持ちをもって生きているぐらいの、韓国的な料理です。【K019】 下位

一方、日本語母語話者については(80)(81)のようにVタイNが4例、Vタイ+時が1件出てきた。どれも不特定の人を主体とする連体修飾の中で用いられているが、村上(2014)の指摘する通常のタイと被修飾名詞の関係であり、文法上も待遇上も問題はない。

(80) 食べたいものを取って、最後にお会計をします。【J007】

(81) 季節などに関係なく一年中、食べたい時に食べます。【J007】

### 3. 7. タスク10・11

タスク10は、英語の早期教育に対する意識調査に協力してほしいという教授の依頼に応じて、メールで意見を述べるという設定である。(82)のように、「と思います」を伴って、いるが、この「思う」主体が「私」なのか「子供」なのか明確でなく、第三者の希望を推察しているのか、子供の希望を言っているのかわかりにくくなってしまう例があった。3. 8. のタスク12で述べるような物語の登場人物の希望を描写する場合は問題ないが、子供の希望を推察しているのであれば「勉強したいのではないかと思います」、後者であれば「勉強したいと思っています」が適切である。これもタイの主体が第三者である場合のむずかしさである。

(82) 子供の段階では、発語も勉強したいと思います。【C040】 中位

同じトピックで友達の卒論のアンケート調査に協力してメールで意見を述べるのがタスク11である。「聞きたいこと」は3. 5. タスク7でも教授に対して用いられているが、友達であれば(83)(84)のように問題ない。

(83) また聞きたいこととがあればいつでも聞いてね！【K004】 上位

(84) もし聞きたいことがあったらまた連絡してください。【K033】 下位

### 3. 8. タスク12

このタスクは、小学校の新聞に掲載するために、「七夕伝説」のストーリーを小学生でもわかるようにわかりやすく書くことを依頼されたという設定である。ストーリーを説明す

る場合には、あらずじや登場人物の感情等をどのような視点で語るか等、大学の日本語授業でよく取り上げられるレポートなどの論理的な文章の書き方とは別のむずかしさがある。予想通り、下位学習者を中心に、いくつかの不適切な表現が見られた。

- (85) ある日、織女は人間が住んでいる地上に遊びに行きたいです。【C022】下位
- (86) しかし二人が出会えて、恋に落ちて、やはりずっと二人でいたいからあまり仕事をやらない時間がどんどん増えていきました。【K034】中位
- (87) 特に女の子たちはみんな「織姫」のような美しくても布を織るのが上手な娘になりたいので、その日にお祈りをするのです。【C039】上位
- (88) 天帝は織女をとてまあかわいがってるから、一番いい男に嫁に行かせたいと思う。【C043】中位
- (89) “織女”は毎日ほかの神様たちに服を作ってあげます。だんだん“織女”が大きくなって、神さんの父は自分の娘にお夫を見つけてあげたいと思って。【C036】下位

まず、(85)のように「Vたいです」という言い切りの形が1件あった。物語の登場人物とはいえ、第三者である織姫が主語であるため不自然となるが、一方(86)(87)のように、「Vたいから」「Vたいので」「Vたくて」のように理由や原因を表す従属節等で用いられている場合には不自然さは減る。これは3、4、タスク6等で述べた連体修飾と同様である。

また、(88)(89)のように「Vたいと思う／思って」が3件あった。第三者が主体の場合にはタイは言いきりでは使えず「思う」などといっしょに使うということは分かっているが、時制が不正確で、「たいと思いました」「たいと思っていました」と、です・ます体の過去形にすると自然になる。ちなみに日本語母語話者は(90)(91)のように「Vたいと考えました／思いました」などを用いていた。

- (90) 天の神さまです。天の神さまは、おりひめに見合う男の人を見つけて、おりひめと結婚させてあげたいと考えました。【J007】
- (91) おしゃれにも気を配らず働くおりひめを見た神様は、おりひめをきれいな女性にし、だんなさんを見つけてあげたいと思いました。【J010】

また、タスク6でも述べたとおり、(92)(93)のようにタガルを用いた例が2件あった。こちらはタスク6と異なり、それぞれ「結婚させたい」「会いたい」という思いがたびたび言動に表れていたと推察されることから、自然である。ただし、タガルとタカッタの混同か、「たかって」という表記上のミスがあった。

- (92) それで、天帝は織女を強くて真面目な男と結婚させたかかっていました。【K013】中位 (再掲)
- (93) 「牛郎」と「織女」はお互いに会いたがっているから、うつ病になれる可能性が多

くて、「麻鵲」というお鳥さんたちは二人の愛情を感動されて、鳥の橋を作って、二人はその橋を利用して会った。【C026】下位（再掲）

### 3. 9. その他のタスク

タスク3は、デジタルカメラの普及についてのレポートで、グラフを説明するという課題である。対人関係に関わるようなトピックではなく、学習者のタイ産出は(94)の1件のみであった。これは論文として問題ない表現である。日本語母語話者がタイを使用した例は1件もなかった。

(94) 次々と新しい物が出てくる電子機器業界でこのような販売台数の推移を見せるのは珍しいことで、その理由についてはこれから考察していきたいと思う。【K006】上位

また、事故にあって入院している後輩に自分の類似の経験を伝える手紙を書いて励ますというタスク5では1件、学習者の中に(95)のような言い切りのタイがあった。ただし、この場合は読み手の恩恵となる行為であるため、書き手の恩恵となる「借りたいです」のような失礼な印象はない。同じ言い切りであっても、それがだれのための行為かで印象が変わってくることもタイの特徴の一つである。

(95) 私も同じような経験がありましたので、早く回復するために私は以下のようなアドバイスをしたいと思います。【C050】下位

4コマ漫画を見て、救急車で運ばれた先輩の様子をメールで友達に伝えるというタスク8では中国語母語話者に(96)1件の使用があった。第三者にはタイを使わないと考えて推量の表現を用いたと思われるが、この場合は「思われたくなくて」「思われたくないから」で十分であり、ミタイをつけるのであれば、「飲んじゃったみたいなんだよ」が自然である。

(96) パーティーで鈴木先輩が古い人の何人も酒を飲ませて、ほら、鈴木先輩ってあんまりアルコールの強いほうじゃないのに、付き合いづらいやつだあって思われたくないみたいから、無理やりぐーと飲んじゃったんだよ。【C045】下位

これも、3. 8. タスク12で述べたように、「Vたく／たくな く て」や「Vたい／たくな い から」のような場合には第三者についてもタイを用いることができることが十分理解されていないことによる不自然な表現であると思われる。連体修飾の場合と同様、第三者に対してはタイを用いることはできないという制約が緩和される場合について、十分研究されているとはいえ、当然授業等でもあまり学習していないことによる誤用であると言えよう。

### 3. 10. まとめ

まず、3. 1. タスク1で述べたように、上位者に対する依頼の場面で、日本語母語話者と同様にタク+連絡したetc.というタイプのビジネス場面での定型を用いている学習者が上位者の中に見られた。このような場面に応じた型を獲得していることが上位群の特徴と言えるであろう。

また、依頼場面での前置きとして用いられる「Vたいのですが」を言い差しで用いたり、「のだ」を使わずに「Vたいですが」としたりといった「のだ」の誤用や非用が中位・下位群の学習者を中心として見られた。同様の問題はタスク9・10などでも見られた。ノダの不適切な使用や書き言葉と話し言葉の混用が原因であると思われるが、タイを伴うと自己の希望・要求が当然の権利であるというような印象を与える表現となる。タスク4では、下位群の学習者に「ていただきたい」、「たいんです」のような相手の都合を聞く表現がない言い切りの例が見られた。ただし、タスク7のように依頼に基づいて自分が相手の恩恵となる行為をする場合には言い切りでも失礼な印象はなく、状況による使い分けが必要となる。

さらに、日本語では相手の負担に言及することがより丁寧な表現となり、何かを借りる場面では「借りる」よりは「貸す」を用いることが待遇にかなった表現になると考えられる。それ故特に自己の願望をストレートに表す「借りたい」は丁寧度が低くなると言えるが、学習者は上位群の学習者であっても「貸す」よりも「借りる」の使用が多く、「借りたい」も多く見られた。これはタスク2の友人に対しても同様であった。このように学習者の場合、相手が目上であるかどうかにかかわらず、「借りる」の使用が多いことがわかった。自己の願望を述べるだけで、そのあとに相手の都合を聞く表現がない場合も目立った。

一方日本語母語話者は、「借りる」を用いた例は少なく、用いる場合には謙譲語を用いることで上位の相手に対する配慮を示すなど、トータルとして丁寧さを調節していることがわかった。学習者は目上の相手に対するこのような調節が少なかった。

また、母語話者の場合、願望の表現で言いつばなしにするのではなく、その後相手の都合を聞く表現を伴っていることも明らかになった。

機能という点でも学習者と母語話者の違いが見られた。即ち、学習者の場合には、「借りたい」が依頼の表現として多く用いられているのに対し、母語話者は依頼表現としてVタイは用いず、むしろ「お借りできますか」のような可能表現を多く使用していることがわかった。

このように、タイの頻度自体に両者にそれほどの差はなかったが、談話構成や機能、敬語の使用による丁寧さの調節等、質的な差が大きいことがわかった。タイは対人関係に関わる重要な表現であるが、上級の学習者であってもその用法の習得は非常にむずかしいと言えるであろう。

また、タスク2で述べたように、日本語母語話者は目上の人に対してはVテイタダキタイ、友人にはVテモライタイよりVテホシイを多く用いていることもわかった。相手の行為を主体として、相手が行う行為をすることを望むあるいは働きかける表現としては「相手の行為+もらいたいetc.」(以下、「テモライタイ系」)か「相手の行為+してほしい」(以下、「テホシイ系」)を用いることができるが、一般にはテホシイ系の頻度が高いとされる。その

理由については明確にされていないが、先に述べたように筆者は目上の相手の場合にはテホシイ系の敬語形がないため、テモラウ系の謙譲語「ていただく」を用いているのではないかと考える。学習者については、上位群にのみ日本語母語話者と同様の傾向が見られた。この点も母語話者と中・下位群の学習者の違いの一つと言えるであろう。

タスク4でも下位の学習者に、目上の相手に対する「ていただきたい」などの普通体の言い切りや「たいんです」のように自己の正当性を主張しているような表現、自己の願望のみ述べて、相手の都合を聞かない例が見られた。さらに、動詞の自他、使役や授受表現の間違いやタイとホシイの混同もあった。使役・授受表現+タイの誤用はタスク7でも見られた。使役や授受表現などの文型は構文が複雑でだれの動作か紛らわしいためそれ自体も誤用の多い項目であることに加え、だれの動作かによってタイ・ホシイの使い分けも必要となる。そのようなむずかしさがあるため、下位群の学習者を中心に、上級者であってもまだまだ習得が困難な項目であると言えるであろう。

自己が影響を与えて他者がある行為をすることを望む場合に、タイを用いている可能性も考えられるものもあった。同様の用例はタスク6でも見られた。いずれも下位の学習者であるが、この点も学習が必要となる。タスク6ではこのほかに、連体修飾でタガルを使う例が見られた。タイは通常三人称には用いることができないが、タスク8・12でも述べたように「ので」「から」「て」や連体修飾の場合には用いることができる。また連体修飾ではVタイ／タガル／タガッテイルNなどの微妙な違いも問題になる。しかし、そのような人称の制約緩和のルールやニュアンスの違いも含め、タガルやガルの用法をそれほど詳しく学習しない場合も多い。上位群の学習者についても、十分使いこなせない例が見られたのはそのためであると考えられる。

タスク7では、目上の相手の行為にVタイを用いた例があった。上級だけあって、「Vたいですか」と直接相手の希望を聞く表現は見られなかったが、「知りたい部分」「旅行に行きたいということ」「知りたければ」のような部分でタイを用いている例が中位・下位群の学習者を中心に多数見られた。これは、書き手が単に相手の希望について言及するだけであれば、私的領域の侵害としてちょっと子供っぽいと感じる程度で、過失はそれほど深刻ではないが、「知りたければ、教えてあげますよ」のように、相手に恩恵を与える場面だと、非常に恩着せがましい失礼な表現となる。特に他の部分に謙譲語などを用いて改まった文体となっている場合にはちぐはぐな印象となる。そのような文体・待遇の統一もむずかしい項目の一つであろう。一方日本語母語話者の場合は、目上の相手そのものではなく一般的な希望として表現するなどの工夫が見られた。

このほか、活用の間違いや第三者にタイを用いた例や不適切な助詞の省略も少数ながらあった。

今回の調査では、熊井(1989)で指摘したような相手の希望を直接聞く「Vたいですか」の誤用そのものは見られなかったものの、タイにまつわる学習者特有の使用例はきわめて多岐にわたっていることが明らかになった。

#### 4 考察

以上の各タスクでのタイの使用状況の分析から、上級の学習者であってもタイやタガル

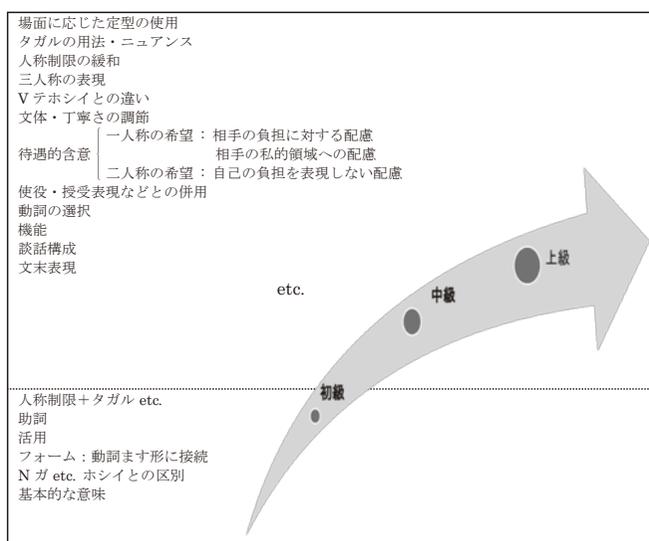
の使用に日本語母語話者とは異なるさまざまな特徴が見られることが明らかになった。これは、ホシイとタイの使い分けや活用・構文上のむずかしさに加え、感情・感覚を表すことから通常は第三者に用いることはできないが、連体修飾や「から」「ので」などの場合にはその制約が緩和されること、タガルが第三者の場合に制約なしに用いられるわけではなく、独特のニュアンスを帯びる場合があることなどによるむずかしさが原因となっている。直接的な自己の行為ではなく、間接的に事態の変化に影響を与えることを望む場合にその変化を直接引き起こす行為+タイは用いることができないことも誤用の原因の一つであることもわかった。

加えて、タイが希望・願望という主観性を強く帯びた言語形式であるため、それが相手の負担のもとに成立する自己の希望である場合には相手に負担をかけることが当然の権利であるような表現となる危険性があるし、逆にそれが目上の相手の願望である場合には、それをストレートな形で表現することは相手の私的領域を侵害することになるが、特に相手に恩恵を与えるような場面では、それを強調する非常に失礼な表現となり、深く対人関係に影響を及ぼす危険性もある。このようにタイは待遇上の配慮が要求される表現であり、それ故、自己の行為の実現を望むことを表現するのか、あるいは負担を伴う相手の行為の実現を望む表現とするのかという動詞の選択やノダなどの文末表現、適切な談話展開やタイで表される機能、待遇の調節機能を持つ尊敬語や謙譲語、授受表現の選択等、さまざまな用法上の制約が生ずる。これらが習得上の困難点となっていると言える。

日本語を母語とする大学生にも定型の多用や目上の相手に対するタイの使用など、不適切な産出が見られ、母語話者であっても適切な使用がむずかしい面があることもわかった。学習者にとってはなおさらで、上級以上であってもまだまだ十分習得されていない例が多数見られることが明らかになった。

このような習得状況のイメージをまとめたのが表7である。

表7 Vタイの習得過程のイメージ



現状では初級以降の学習者の自然習得に任されている部分が多いと言えるが、以上のようなVタイの習得過程を見据え、初級レベルの基本的の意味や語形式の学習にとどまらず、中・上級段階においても引き続き多角的な指導を行うことがきわめて重要である。併せて、学習者自身が自己や母語話者の言語使用を客観的に観察できる力を育てるという視点も不可欠であろう。

## 5 おわりに

本稿ではYNUコーパスを利用して韓国語・中国語を母語とする学習者のタイの使用状況を考察した。その結果、上級以上の学習者であってもその使用状況にはまだまだ日本語母語話者と大きな質的違いがあることがわかった。

タイは深く待遇に関わる言語表現であるため、単なる文法上の間違いとは異なり、このような質的差異が母語話者に違和感や不快感を与え、本人が意図していないところで対人関係に摩擦を引き起こしてしまう可能性も十分ある。日本語教育では、Vタイは比較的早い時期に学習する項目であるが、ある課で単なる希望・願望の表現として一度教えたからそれで終わりというのではなく、中・上級段階においても継続的・多面的な指導が不可欠である。

同時に、連体修飾や原因・理由を表す従属節等の中など、第三者の願望であっても使える場合や、タガルのニュアンス等についてはまだまだ十分研究されているとは言えない。また、本稿で使用したのは書き言葉コーパスであるが、話し言葉についても検討する必要がある。

このような点を踏まえ、複雑なタイの用法を明らかにするとともに、日本語教育での適切な指導時期や方法について今後も考察を続けていきたい。

## [注]

1. <https://kakikata.dkrht.com/mail4/polite00500.html> 参照。
2. <http://email.chottu.net/phrase/syokai.html> 参照。
3. 「お貸りすることをお願いしたい」は「お借りすることをお願いしたい」の表記ミスであると思われるので、正しい表記に改めて、「借りる」に入れることにする。
4. 「借していただきたい」「借りてもらいたい」はそれぞれ「貸していただきたい」「貸してもらいたい」だと思われるので、こちらは「貸す」に入れることにする。
5. 「保存する」は語彙として適切ではなく、本来は「維持する」「存続させる」が適当であるが、今回はタイに焦点を当てるため、それには立ち入らないこととする。

## [参考文献]

- 金澤裕之編（2014）『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- 熊井浩子（1989）「待遇表現指導の一視点—ほしい・たいを中心にして—」『日本語学校論集』16号 pp.1-14
- 白川博之監修（2001）「§ 41. 接辞」『中上級を教える人のための日本文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

- 鈴木睦（1989）「聞き手の私的領域と丁寧表現—日本語の丁寧さは如何にしてなりたつか—」『日本語学』2月号 pp.45-76 明治書院
- 田中稔子（2001）『田中稔子の日本語の文法—教師の質問に答えます—』近代文藝社
- 趙海城（2015）「上級～超級日本語学習者の作文から見た言語産出実態」『第7回コーパス日本語ワークショップ予稿集』 pp.293-302 国立国語研究所
- 鶴田庸子他（1988）『英語のソーシャルスキルズ』大修館書店
- 韓金柱（2011）「感情形容詞に対応する『～む』動詞について—『～がる』との比較を視野に入れて—」『東京外国語大学大学院博士後期課程論叢言語・地域文化研究』第17号 pp.63-76 東京外国語大学大学院
- （2012）「現代日本語における「～がる」の統語的な特徴」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』No.8 pp.153-164
- 宮川和子（1998）「シテホシイとシテモライタイ—シテホシイの進出・定着—」『国文学 解釈と観賞』63巻1号 pp.41-50
- 村上佳恵（2014）「連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係 —うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴—」『学習院大学国語国文学会誌』57 pp.45-56
- 由井紀久子（1995）「シテクダサイとシテモライタイとシテホシイ—依頼を表す用法—」『日本語類義 表現の文法（上）』くろしお出版

**On the Usages of *V-tai* by Advanced Learners of Japanese  
— based on the YNU Corpus —**

KUMAI, Hiroko

This paper analyses the uses of *V-tai* by advanced learners of Japanese, based on the YNU Corpus. It is found that even advanced learners still have some different or inappropriate uses, such as the choice between the transitive and intransitive, sentence constructions of causative and benefactives, confusion between *hoshii* and *tai*, and mistakes using *V-tai* for another person's actions which are influenced by the writer. Inaccurate expressions resulting from the difficult usages of *V-tagaru* and the insufficient understanding of the fact that the person restriction of *V-tai* is relieved under certain conditions are also found. In addition to these inadequate uses because of the grammatical constructions and person restrict, the inappropriate uses related to the interpersonal considerations, such as choice between *kariru* and *kasu*, uses of sentence-end expressions, discourse patterns and functions and the choice of honorific expressions are also observed. This means that the difference between the learners and the native speakers are in quantity, rather than in quality. It turns out that the usages are so difficult to master, they should be taught continuously from various aspects even after the elementary level.